『猿・鹿・熊』の序

岸田國士

青空文庫

この本の著者と私は一面識があるといふだけで、それほど深い交渉はないのだけれども、かねがね地方における篤学篤行の士であることは聞き及んでいた。

たまたま今度、本書の出版にあたって、私に序を寄せよとの希望があり、私は、自分に与えられたこの役割を無下に辞退する気にならなかった。それは、本書のゲラ刷を一読してみて、類の少い内容のものだといふ感じがしたばかりでなく、僻地における教師生活の実状を知る私として、この種の作業に身を入れる著者の精神を高く評価したためである。

野性動物の生態を観察、記録する興味と実益は、いまさら事新しく論ずるまでもない。本書の著者もおそらく先人の残した業績について、ひと通りの知識を備えているにちがひないが、それはそれとして、自分のおかれている自然環境のなかから、自分の眼で見、耳に聴く活き活きとした動物世界の習性の数々を、必ずしも純然たる科学者の探究方法によらず、むしろ、童心にもうったえ得る親しみ易い態度で、平明に語ろうとしている点が、私の注意をひいた。

猿、鹿、熊の三つの題を撰んだのも、信州という山国の、そのまた山奥の風土記の味いを添えつつ、最も子供たちに好奇心をもたれている愛嬌ものを揃えたところに、著者のねらいがあるのであろう。

そして、そのねらいはたしかに成功している。

私もしばらく信州で暮らしたことがあり、現在も上州の山の中で一年の大半を過すのであるが、本書によって教えられるところはもちろん多いし、さらに、これらの動物に対して、新たな興味が湧いて来た。しかし、実際に彼等の山中における生活を見る機会はなさそうだから、せめて、この書物を読んでおいて、もう一度動物園へ行ってみるつもりである。きっと、檻の中の彼等は、私がなにを知っているかを気づかずに、すました顔でむしゃむしゃなにかを食っているであろう。その顔を見るのは、今から楽しみである。

一九五一年十月　　浅間山麓にて　　岸田國士

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集28」岩波書店
　1992（平成4）年6月17日発行
底本の親本：「猿・鹿・熊――日本にすむ野生動物の生活」さ・え・ら書房
　1951（昭和26）年11月1日発行
初出：「猿・鹿・熊――日本にすむ野生動物の生活」さ・え・ら書房
　1951（昭和26）年11月1日発行
※「猿・鹿・熊――日本にすむ野生動物の生活」は松山義雄著。
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2011年2月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『猿・鹿・熊』の序

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/